

R2年度 口腔健康支援法（第1回） NO 氏名

1. 口腔保健における健康モデルの転換

	医療モデル	→ 生活モデル
目的	う蝕・歯周疾患の治療	QOLの向上
目標	健康 (う蝕・歯周疾患の治療と予防)	快適な生活
主たるターゲット	歯科疾患 (生理性に正常な状態の維持)	生活の困りごとになっている 歯科的問題
主たる場	診療所・病院	家庭・地域・職場
チーム	歯科医師・歯科衛生士 (命令と指導)	多種(医療・地域住民・行政) (協力)
対象の捉え方	医学モデル (病因→疾患)	ヘルスプロモーションモデル (困りごと→QOLの低下)

参考文献:広井良典 ケアを問い合わせ直す 1997年

2. 口腔健康支援の目的

\* 「口腔の健康を通じた一人ひとりの快適な暮らしや幸せな人生」

3. 歯科衛生過程とは（図示しましょう！） 予P63、よくわかるP13

4. 健康（保健）行動理論（それぞれについてまとめる） 予P35～

①健康信念モデル

②社会的認知理論（自己効力感）

③プリシード・プロシードモデル（ミドリモデル）

④変化のステージモデル（段階的変化モデル）

⑤ストレスとコーピング

⑥歯科衛生ヒューマンニーズ概念モデル

5. マズローの欲求階層説（人間の欲求）理論（図示しましょう！）よくわかる P17

6. 歯科衛生ヒューマンニーズ概念モデル

